



小学部 1年4組 国語科

みょう きこう 「おおきな かぶ」

児童の目指す姿

- ・本児は身近な人との関わりに慣れ、感じた気持ちを表現することを目指している。本題材では、読み聞かせやお話遊びを通して、「うんとこしょ どっこいしょ」の言葉を意識し、かぶを抜くやり取りを楽しみながら、表情や体の動きで気持ちを表すことを目指した。

題材構想 指導案検討会より

- ・児童が見通しをもって学習できるよう、活動や学ぶ言葉をしぼり、シンプルな題材構成にするとよい。
- ・聴覚優位の児童であるため、登場人物や言葉に沿った効果音を取り入れると良いのではないかと。



児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・始めの歌や読み聞かせで期待感をもち、教師を見たり笑ったりした。

対話的な学び

- ・教師の言葉掛けや働き掛けに慣れ、笑顔や手の動きで気持ちを表した。

深い学び

- ・読み聞かせやお話遊びが進むにつれて、顔や手の動きが活発になり表情が豊かになった。

授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- ・お話「おおきなかぶ」への興味・関心を広げるための教材の提示の仕方、素材等の工夫→ペープサートやかぶを、見えやすい位置に提示する。かぶの素材を工夫し、触れる活動を加える。
- ・「うんとこしょどっこいしょ」の言葉をどう伝えるかを丁寧に検討→少し力を入れて引っ張るようなイメージをどう伝えるか。そのため、教材や支援の方法を工夫する。
- ・めあての提示と振り返り→教師の言葉をよく聞き期待感をもっていった。だからこそ、めあての提示は必要。子どもが何をすればよいのか分かりやすく伝え、それをもとに振り返る。

題材を通しての成果と課題

- 教師との関わりを楽しみ、言葉掛けに応じようとする芽生えが見られてきた。
- ペープサートによるお話では言葉のリズムを楽しみ、笑顔や期待する表情が増えた。
- かぶを引っ張るお話遊びでは、手を動かすとかぶが持ち上がるように教材を工夫したことで、教師の「うんとこしょどっこいしょ」の言葉を聞きながら、意欲的にひもを引っ張る動きが見られた。また、かぶが持ち上がり教師に褒められると満足気な表情が見られた。
- せりふを表現するための、児童の実態に合ったスイッチ教材の選択